

「馬堀海岸地区環境整備検討会」
第2回 検討会
議事録

日 時：平成15年11月4日(火) 10:00～12:00

場 所：ヴェルク横須賀 6階 第1会議室

出席者：

委員長	阿部 志郎	県立保険福祉大学	学長
委員	斉藤 進	産能大学	教授
"	島田 正文	日本大学	教授
"	小林 昭男	日本大学	助教授 (代理出席：山本和清 副手)
"	西原 徹	大津地区連合町内会	会長
"	渡辺 静江	横須賀市消費生活研究会	会長
行政側委員	江河 直人	国土交通省関東地方整備局京浜港湾事務所	所長
"	石田 稔	国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所	所長
"	引田 鉄五郎	神奈川県横須賀土木事務所	所長
"	安東 崇夫	横須賀市土木部	部長
"	磯部 日出男	横須賀市緑政部	部長
"	田口 永俊	横須賀市港湾部	部長

主な討議結果：

1. 第1回検討会議事録の確認

- ・第1回検討会議事録を確認した。

2. 検討会の進め方について

- ・PIの進め方について説明した。
- ・オープンハウスの開催報告を行った。

3. 整備案について

- ・樹種の選定及び樹木の配置について協議した。

4. アンケート内容について

- ・アンケート内容について協議した。

5. 今後のスケジュールについて

- ・今後のスケジュールについて説明した。

議事要旨：

1. 第1回検討会議事録の確認

(主な討議結果と同じ)

2. 検討会の進め方について

- (委員) ・馬堀海岸地区は文化度が高く、そのなかでも緑陰プロジェクトに関心がある方がオープンハウスへ来場したと考える。当日のアンケート結果は的確な意見が反映されており、十分参考にしたい。
- (委員) ・管理に関する意見で、葉が枯れているものがあると指摘しているが、新しく植えたものを指しているのか。また、植栽の管理は行政が行っているのか。
- (事務局) ・去年植えたものが枯れているもの、例年枯れてしまうものの両方がある。
- (委員) ・昨年度植えたもので下枝が枯れているものがあるが、高い位置のため住民は除去できない。クリーン横須賀でキャンペーンをした際に、枯れた下枝は切ってもらいたいという意見がでた。
- (委員) ・自治会では下の部分の掃除をしている。
- (委員) ・枯れているという意味は木が枯れているのではなく葉が枯れている。
- (委員) ・管理は行政で行っており、枯れて落ちそうな葉は撤去している。
- (委員) ・情報を得たい方法として広報誌があげられているが、これまでどんな対応しているか、また今後はどんなことを考えているか。
- (委員) ・今後、横須賀市の広報誌に載せていくことは可能である。
- (委員) ・管理について、決まったことではないが市道についてアダプトプログラムで取り組んでいきたいという相談を受けており、国道も含めていきたいという希望があるのではないかと。
- (委員) ・海岸事業については PI については、アンケート実施やフォーラム開催など積極的に取り組んできている。
- (委員) ・アンケート結果を見ると、好意的な反応であり、良かったのではないかと。

3. 整備案について

- (委員) ・樹木はどのくらいの大きさのものを植えるのか。
- (事務局) ・まだ決めていない。
- (委員) ・海側には低木を植えるのか。
- (事務局) ・しぶき対策として高木の間は中低木を植える予定である。
- (委員) ・間隔は10m、30mとのことだが、他には考えられないか。
- (事務局) ・樹種の配置間隔は、住宅側からの眺めや道路照明との関係から提案している。ただし、均等に植えるだけでなく、一定個所で密植するパターンもある。
- (委員) ・樹木配置について、交差点付近の中央分離帯は一定区間、植えないようにしてほしい。
- (事務局) ・樹種は、中央分離帯は2種、海岸側は4種から選ぶとのことだが、複数種を交互に植えることは考えられないか。
- (事務局) ・全て一緒にすることにこだわっていない。ある区域ごとに変える意見があれば検討したい。
- (委員) ・現在、他の地区の国道16号の海側はフェニックスが多い。デザイン、耐潮性からフェニックスがいいのではないかと。
- (委員) ・中低木は、高木が決まってから検討すべきではないかと。
- (委員) ・間隔について、海側と山側は同じほうが統一感があつていい。
- (委員) ・中央分離帯は交通安全のこともあり、やや疎にするなどバラエティがあるのではないかと。
- (委員) ・樹種はこの距離であれば一定にしたほうが統一感があると思うが、ご意見をもとに検討したい。
- (委員) ・樹高は予算の範囲のなかで、できるだけ大きなものにしたい。

- (委員) ・環境条件から、樹木はVRのように大きくならないのかもしれない。あわせて中低木を植えたら、高木よりもよく育ったら印象が変わってしまう。今からどの位の木を植えるか想定しておいたほうがいい。中低木を含め、植栽デザインを考えたほうがいいのではないかな。
- (委員) ・市民のご意見は環境面よりデザイン面からの要望が多いと感じるが、維持管理を考えて検討すべきである。
- (事務局) ・現在、街路樹ではないが風よけのクロマツが定着している。これらの樹木や住宅側にあるワシントンヤシやカナリーヤシとの調和や兼ね合いを考慮してほしい。海側はしぶきよけによる飛沫防止ができるといい。その点では、タブノキは繁っていいがヤシでは素通しになってしまう。
- (委員) ・海側の眺望はあまり気にしなくてもいいのではないかな。海側一列目の一戸建ては全体に対して少ない。
- (事務局) ・二酸化炭素の吸収については適当な情報が得られなかった。樹種により大差はないと考えられるが、ヤシ類は光合成の速度が遅い反面、どんどん成長し炭素固定能力は高いと考えられる。
- (委員) ・広葉樹は100本で500kg/年の二酸化炭素を吸収し、自動車の二酸化炭素の排出量は600kg/年だと聞いた。
- (委員) ・歩行者にとって、タブノキはしぶきよけになり木陰もできる。車で通り抜ける場合はヤシがいいと考えた。大切なのは地元の方の生活上の景観であり、安全ではないかな。
- (委員) ・ヤシの木の場合、倒れないかと心配されることはないかな。支柱などによって補強しないかな。
- (事務局) ・今回の整備では、鳥居支柱を設置する必要があると考える。
- (委員) ・アンカー式にはしないかな。
- (事務局) ・支柱が景観的に問題になる場合には検討するが、今回では考えていない。
- (委員) ・護岸上は散策路になることから、木陰やベンチがほしいところである。海側は木陰ができる木がほしい。
- (委員) ・次回検討会では植栽のデザインが提案されるのか。樹木を疎に植える、密に植える、タブノキを植えるなどの皆さんの意見をもとに平面図をつくるなどにまとめてくれるのか
- (委員) ・次回検討会では最終案が提案されると理解している。
- (事務局) ・アンケートや今日の意見を反映したデザインを図面等で示したい。

4. アンケート内容について

- (委員) ・問1の1, 2は、写真の違いを見分けにくいいため工夫してほしい。
- (委員) ・問1について、中央分離帯と海岸側の組み合わせだが、説明をもっと明快に書けないかな。市民参加については、一般論として聞いているかな。手前のヤシはもう少しきれいではないかな。
- (事務局) ・市民参加は当地区を含んだ一般論として聞くものである。アンケートはオープンハウスでも行ったが、さらにエリアを広げて意見を聞こうとしている。委員の意見を踏まえ、若干の修正はして行いたいと思う。
- (委員) ・内容は一般の方が見てわかるように、中央分離帯などは断面図の表記とあわせ工夫したらどうか。「海岸護岸」の表記も同様である。
- (事務局) ・わかりやすい表現にしたい。

5. 今後のスケジュールについて

- (委員のスケジュール調整の結果)
 - ・第3回検討会は平成16年1月28日(水) 午前10時からとする。

以上